関東地方

名前

問1　千葉県や神奈川県といった南関東の沿岸部において、冬でも比較的温暖な気候となる自然要因として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 徳島県公立入試 類似）

1. 暖流である黒潮（日本海流）が太平洋沿岸を流れており、周囲の気温を下げにくいため
2. 寒流である親潮（千島海流）が冷たい空気を運ぶことで、冬の乾燥を防いでいるため
3. 日本海を北上する対馬海流が、関東平野に暖かい湿った空気を送り込むため
4. 内陸から吹き下ろす乾いた季節風が、山地で暖められて沿岸部に到達するため

問2　群馬県北部の地点から南東の埼玉県側の地点を結ぶ地形の断面的な特徴について、その標高の変化を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山県公立入試 類似）

1. 南東側の平野部から北部の山地に向けて標高が緩やかに上昇し、標高500メートル程度のなだらかな丘陵地が続く地形
2. 群馬県北部から埼玉県にかけて標高の差がほとんどなく、全域にわたって標高100メートル以下の平坦な土地が広がる地形
3. 北部の山地と南東の平野部の間に巨大な盆地が存在するため、中央部で一度標高が大きく下がった後に再び上昇する地形
4. 標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形

問3　群馬県の高原地帯で行われている「抑制栽培」について、農家がこの栽培方法を選択している経済的な理由として最も適切な説明を選択してください。（2022年 福島県公立入試 類似）

1. 九州地方などの暖かい地域と出荷時期を重ねることで、市場でのシェアを競い合うため。
2. 大消費地である東京から遠いため、輸送コストを削減するために収穫時期を遅らせる必要があるから。
3. 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。
4. 冬の寒さが厳しいため、ビニールハウスを利用して成長を早める促成栽培を行う必要があるから。

問4　日本の人口動態に関する統計において、東京都では他地域から引っ越してくる人数（転入者数）が、他地域へ引っ越していく人数（転出者数）を大きく上回る状況が続いています。このような人口移動の結果として生じる人口の増加を何と呼びますか。（2018年 三重県公立入試 類似）

1. 社会的増加
2. 合計特殊出生率の向上
3. 自然的増加
4. 人口爆発

問5　埼玉県行田市の市街地には、かつての城下町としての構造と、近代以降に発展した地場産業の歴史が共存する景観が見られます。敵の侵入を遅らせる目的で道路をクランク状に曲げた「桝形」と呼ばれる遺構や、明治時代以降に日本最大の産地として発展したある製品を保管するための蔵や鋸屋根の工場が今も残っています。この地域で発展した伝統的な産業として正しいものはどれですか。（2026年 東京都公立入試 類似）

1. 織物産業
2. 足袋製造業
3. 醤油醸造業
4. 陶磁器製造業

問6　栃木県・群馬県・茨城県を中心とする北関東の工業地域において、1960年代には内陸部に点在していた工場の分布が、近年では特定の交通網に沿って集中するように変化しています。この地域で新しく工場や物流拠点が建設されている場所の特徴として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 高速道路のインターチェンジ周辺
2. 広大な農地を確保しやすい山間部の急斜面
3. 貨物列車の積み込みを行う鉄道駅の周辺
4. 大型貨物船が停泊できる港湾の付近

問7　成田国際空港などの拠点で行われる「航空貿易」において、半導体などの電子部品や医薬品が主要な取引品目となっている理由として、最も適切なものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 製品の形が複雑であり、船舶のコンテナに積み込むことが技術的に困難だから
2. 航空機は船舶に比べて一度に大量の物資を運べるため、輸送コストを最小限に抑えられるから
3. 国内の港湾施設が老朽化しており、精密機械を安全に積み下ろしすることができないから
4. 製品が重量のわりに価格が高い「高付加価値」なものであり、輸送時間の短縮が重視されるから

問8　ある都市の特定の地域において、1990年代後半には約300人であった人口が、2010年代後半には6,000人を超えるほどに激増した事例があります。この地域では、以前は工場や駐車場として使われていた場所の多くが、現在は21階以上の高層マンションに変わっています。このような変化をもたらした主な要因として最も適切なものはどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 地価の下落による、広大な敷地を持つ低層工場の都心部への移転
2. ドーナツ化現象による、職住分離を目的とした郊外住宅地の拡大
3. 鉄道利用などの利便性を背景とした、再開発による居住機能の強化
4. 食料自給率の向上を目的とした、都市農業のための生産緑地の指定

問9　群馬県太田市などの北関東の都市を中心に見られる、高速道路のネットワークを活用した工業の立地について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 奈良県公立入試 類似）

1. 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。
2. 原料を海外からの輸入に頼るため、大型船が接岸できる埋立地や臨海部に広大な工場用地を確保している。
3. 製品の鮮度を保つために、消費地である大都市の中に小規模な工場が点在し、地下鉄を利用して製品を運んでいる。
4. 電力の確保を最優先とするため、大規模な水力発電所が建設されている山間部の急流沿いに工場が密集している。

問10　香取市佐原の歴史的景観が形成された背景として、地理的な条件と歴史的な背景を組み合わせた説明として正しいものはどれですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）

1. 利根川下流の小野川沿いに位置し、江戸時代に物資を運ぶ舟運の拠点として発展したため、商人たちの活気ある町並みが作られた。
2. 急峻な山々に囲まれた要害の地であったため、戦国時代の城郭建築を中心とした都市景観がそのまま残された。
3. 明治時代以降に海外貿易の拠点として開港されたため、西洋風のレンガ造りの建物が並ぶ港町として発展した。
4. 広大な平野を活用した大規模な稲作を推奨するため、幕府が農民の居住区として計画的に建設した集落である。

問11　1700年ごろ（18世紀初頭）の日本における田と畑の面積の状況について、全国的な傾向と地域的な特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）

1. 日本全体では田の面積が畑を上回っているが、関東地方では畑の面積の方が田の面積よりも広かった。
2. 全国のすべての地方において、主食である米を生産するための田の面積が畑の面積を上回っていた。
3. 近畿地方や中国・四国地方では、商品作物の栽培が盛んになったことで、畑の面積が田を大幅に超えていた。
4. 九州地方は火山灰地の広がりにより、全国で唯一、畑の面積が田の面積を上回る地域となっていた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 暖流である黒潮（日本海流）が太平洋沿岸を流れており、周囲の気温を下げにくいため	南関東の太平洋沿岸には、赤道付近からの熱を運ぶ暖流の黒潮（日本海流）が流れています。暖流は周囲の空気を温める効果があるため、沿岸部では冬の冷え込みが緩和され、比較的温暖な気候が保たれます。これにより、房総半島などでは冬から春にかけての花の栽培なども盛んに行われています。
問2	答え 4 標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形	群馬県と新潟県の県境付近には、三国山脈などの標高2000メートル級の険しい山々が連なっています。そこから南東方向の埼玉県側へ向かうと、標高は急激に低くなり、日本最大の面積を持つ関東平野へとつながります。このように、北西側の高い山地と南東側の広大な平野という対照的な地形が隣接しているのが関東地方北部の大きな特徴です。
問3	答え 3 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。	本来、野菜の多くは特定の季節に収穫が集中しますが、標高の高い涼しい気候を利用してあえて収穫時期を遅らせる「抑制栽培」を行うことで、供給が不足する夏場に市場へ出荷することが可能になります。これにより、他の産地との競合を避け、有利な価格で取引することができます。
問4	答え 1 社会的増加	人口の増減は、出生と死亡の差によって決まる「自然的増減」と、転入と転出の差によって決まる「社会的増減」の2種類に分けられます。東京都は、進学や就職を目的として地方から多くの人々が流入する「転入超過」の状態にあるため、人口移動に伴う社会的増加が顕著なのが特徴です。
問5	答え 2 足袋製造業	埼玉県行田市は、忍城の城下町としての歴史を持ち、江戸時代から足袋の製造が始まりました。明治から大正時代にかけてはミシンの普及により生産量が急増し、日本最大の足袋産地となりました。このため、市街地には製品を保管するための「足袋蔵」や、作業効率を高めるために北側から安定した光を取り入れる「鋸屋根（のこぎりやね）」の工場が数多く建てられ、現在も城下町特有の「桝形」の道路構造とともに独自の景観を形成しています。
問6	答え 1 高速道路のインターチェンジ周辺	自動車輸送の重要性が高まったことで、トラックによる原材料の搬入や製品の出荷をよりスムーズに行う必要が生じました。北関東では東北自動車道や関越自動車道などの高速道路網が整備されたため、移動時間を短縮し輸送の効率性を高めることができるインターチェンジ付近に工場や物流センターが密集するようになりました。
問7	答え 4 製品が重量のわりに価格が高い「高付加価値」なものであり、輸送時間の短縮が重視されるから	航空輸送は船舶輸送に比べて運賃が高いため、運賃を負担しても利益が出る「高付加価値製品（軽量で高価なもの）」が適しています。また、半導体のような技術革新が速い製品や、人命に関わる医薬品などは、輸送期間を短縮することに大きなメリットがあるため、航空貿易が積極的に利用されます。
問8	答え 3 鉄道利用などの利便性を背景とした、再開発による居住機能の強化	1990年代から2010年代にかけての都市部の変化は、工場などの生産拠点が郊外や海外へ移転し、その跡地に高層マンションが建設されるという流れが顕著です。特に複数の鉄道路線が利用できるような場所では、職住近接を求める世帯の需要が高く、再開発によって居住人口が劇的に増加しました。これを土地利用の観点では、工業的な利用から、より高度な居住利用への転換と捉えることができます。
問9	答え 1 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。	内陸型工業の最大の特徴は、道路網の発達を背景に、交通の利便性が高い場所に立地することです。特に、部品の調達と製品の出荷が頻繁に行われる自動車工業などでは、高速道路のインターチェンジ付近に工場を建てることで、物流コストを抑えつつスムーズな生産体制を築いています。これに対し、臨海部に立地するのは鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業であり、内陸型工業とは立地条件が異なります。
問10	答え 1 利根川下流の小野川沿いに位置し、江戸時代に物資を運ぶ舟運の拠点として発展したため、商人たちの活気ある町並みが作られた。	佐原が「北総の小江戸」と呼ばれるほど発展したのは、利根川を利用した舟運（水上輸送）の要衝だったからです。周辺で収穫された米や特産品を江戸へ運ぶため、中継地点である小野川沿いに多くの問屋や蔵が建てられました。このような水運との深い関わりが、川に面して建物が並ぶ独特の歴史的景観を生み出す要因となりました。
問11	答え 1 日本全体では田の面積が畑を上回っているが、関東地方では畑の面積の方が田の面積よりも広かった。	江戸時代、幕府や諸藩は年貢の基盤となる米の生産を重視して新田開発を推し進めました。18世紀初頭の統計資料を分析すると、日本全体では畑よりも田の面積の方が大きいという結果が出ています。しかし、地域別に見ると例外があり、関東地方では畑の面積が田を上回っていました。これは関東平野に広がる関東ローム層（火山灰地）の台地などが、水田よりも畑としての利用に適していたという地理的要因が関係しています。東北、中部、近畿、中国・四国、九州といった他の地方では、いずれも田の面積の方が広くなっていました。